

今年度の取組と自己評価及び次年度への課題

（1）教育活動の目標と方策

① 学習指導の充実を図る。

自己評価

- ・ 若手及び中堅教員等に対し、新しい学力観に対応した授業の工夫に関する指導を行い、総計24回の研究授業を行った。ICTを活用した授業が十分に定着し、生徒の興味関心を引き付ける工夫ができてきた。
- ・ 学校評価より生徒の授業満足度「80.0%」（生徒の授業満足度昨年82.4%）
- ・ 授業が非常に落ち着いた状況で行われており、思考力を育成する様々な授業形態に挑戦する教員が増加し、学校全体として授業の充実を図ることができた。普段の日の補習・講習、センター試験の受験対策講習などを開講し、長期休業中を含め計56講座を実施した。
- ・ 指導教諭の授業を参観し、校内に還元した。

課題

- ・ 生徒の授業の受講状況は安定した。規律の確保は十分に達成でき、ICTの活用や双方向型の授業展開等も十分できるようになった。平成29年の9月には仮設校舎での授業が開始されることとなる。今までとはかなり異なった環境での授業となるが、昨今の授業状況を継続的に維持する。

② 体系的な進路指導を推進し、希望進路の実現を図る。

自己評価

- ・ 大学、短大、専門学校、就職と生徒の希望進路は多様であるが、いずれの進路についても充実した対応ができており、中堅校である本校の役割を果たすことができた。
- ・ 進学実績が向上する中、就職希望者100%も連続で達成した。
- ・ 進路決定率を向上させるため、安易な浪人はさせない指導を行ってきている。年々大学を目指す生徒が増加するとともにより難しい大学を志望する生徒が増加してきていることもあり、83%となった。（昨年92%）
- ・ 学校評価より「82.5%」（生徒の進路指導満足度昨年84.3%）
- ・ 新たな高大連携として、杏林大学とAP（アドバンスト・プレイスメント）制度を提携した。

課題

仮設校舎の建設が始まり、いよいよ9月からは仮設校舎での授業がかじまることとなる。限られた施設の中でも今までと変わらず進路指導の充実を図っていく必要がある。

③ 基本的な生活習慣の指導徹底し、生徒理解の深化を図る。

自己評価

- ・ 部活動及び生活指導の充実により、特別指導事態が減少し、特に喫煙・飲酒・暴力行為等に関する指導件数は0件である。

- ・ 自転車マナーに関する近隣の苦情が時折生じるため、府中警察と連携したセフティ教室を行うなどを行い、昨年に比べて苦情件数は減少した。また、傘差し及びスマホ見ながらの自転車運転も0にはなっていないが減少した。
- ・ 教育相談推進委員会等を計画的に行い、スクールカウンセラーとの連携し、校内研修を実施した。SNS等における誹謗中傷等は迅速に対応し「いじめ」に発展することの無いよう極めて早期の段階で指導に入ることができている。
- ・ 学校評価より「83.2%」（生徒の生活指導満足度昨年82.9%）

課題

- ・ 減少してきてはいるものの依然として「傘差し運転」「スマホを見ながらの運転」「二人乗り」等の苦情は時折ある。生活指導部による見回りも実施しているが0にはならない。
- ・ 特別指導については、件数は減ってきたが、今までにないケースが発生しており、特別支援教育の特別支援教育の観点やSCとの緊密な連携通じて指導内容を検討していく必要がある。

④ 部活動充実校として部活動・特別活動等の充実を図り、学校生活に意欲をもたせる。

自己評価

- ・ 部活動の実績が安定的に向上し、生徒の学校への帰属意識の醸成が図られた。部活動の充実に伴って、落ち着いた授業環境ができ進学実績が徐々に伸びる向上スパイラルとなっている。
- ・ スポーツ特別強化校の指定を受けているボクシング部は、女子部員が関東で優勝し、理数研究校の指定を受けている生物部は、「科学の祭典」筆記競技・数学部門で6位となった。
- ・ 部活動加入率は71%（目標80%）となった。（昨年72%）

課題

- ・ 一層文武両道が図れている学校であることをアピールし、部活動への加入率を70%中盤にまで増加させ、部活動を通じた生活指導をより一層推進していく。
- ・ スポーツ特別強化校として指定されているボクシング部のさらなる実績向上を目指す。

⑤ 入りたい学校を目指すため、広報活動に力点を置き、入学者選抜の倍率を確保する。

自己評価

- ・ 説明会には積極的に参加し、昨年度を超える中学生とその保護者の関心を集めることができた。
- ・ 校舎全面建替えを目前に控えた状況であるが、学校経営計画の中で部活動充実校を明示し、部活動ごとに目標を掲げる等の取組を行い、グラウンドの全面確保や体育館の継続利用が可能となり、体育施設への影響を最小限に食い止めた。また、本校を第一希望とする生徒をより多く確保するため、前期募集の定員を増やし後期募集の定員を減らした。これら全体の取組により、本校の入選選抜は昨年度以上となった。
- ・ 文化祭においては、土日の両日公開を初めて2回目となり、計2500名を超える来場者があり、本校への関心の高さが伺えた。

課題

- ・ 本校は、平成29年9月より校舎全面建替に向けた仮設校舎での授業が始まる。29年度からは、仮設校舎における募集活動となり厳しい状況が生じる。極めて限られた施設で説明会を行うため、様々な工夫を要する。

重点目標と具体的な目標

① 学習指導の充実を図る。

- ・ 補習及び講習 毎週実施 例年並み実施
- ・ 長期休業中の補習・講習 50 講座以上 全 56 講座
- ・ 図書館利用者数 昨年比 10 % 増以上 25 % 増加

② 体系的な進路指導を推進し、希望進路の実現を図る。

- ・ センター試験受験者 100 名以上 130 名
- ・ 難関私立大学又は国公立大学合格者 1 名以上 1 名（首都大学）
- ・ GMARCH 合格者 5 名以上 5 名
- ・ 日東駒専合格者 25 名以上 24 名
- ・ 4 年制大学への進学率 50 % 以上 49.6 %
- ・ 進路決定率 90 % 以上 84.6 %
- ・ 就職希望者決定率 100 % 100 %

③ 基本的な生活習慣の指導徹底し、生徒理解の深化を図る。

- ・ 茶髪 0 達成
- ・ 遅刻 年間延べ人数 5000 以下 8892
- ・ 特別指導件数 5 件以下 6 件（状況に変化）
- ・ いじめ、体罰 0 件 達成
- ・ 装飾品等への指導強化 ほぼ 0 となった

① 部活動充実校として部活動・特別活動等の充実を図り、学校生活に意欲をもたせる。

※目標に掲げて 2 年目の実績

- ・ 野球部 西東京大会ベスト 32 以上 達成できず
- ・ サッカー部 都大会ベスト 8 以上 Tリーグ昇格 都ベスト 16
- ・ 女子バスケットボール部 都大会ベスト 16 以上・関東大会出場（5 年以内） 都 32
- ・ 女子バレーボール部 都大会ベスト 16 以上・関東大会出場（5 年以内） 都 32
- ・ ボクシング部（スポーツ特別強化校） 関東大会出場継続、関東大会優勝
全国大会（インターハイ、全国選抜大会、国体） 女子関東優勝、全国出場
- ・ 和太鼓部 全国総合文化祭出場 全国太鼓甲子園特別賞(3 位)
- ・ 部活動加入率 80 % 以上 71 %

① 入りたい学校を目指すため、広報活動に力点をおき、入学者選抜の倍率を確保する。

- ・ 推薦入試 3.5 倍以上 3.67 倍
- ・ 入学者選抜倍率（前期入試）を 1.4 倍以上 1.35 倍
- ・ HP 年間アクセス 10 万回以上 153822 回
- ・ 学校説明会来場者数 2000 名以上 2080 名
- ・ 学校見学者数 2500 名以上 2463 名

② 組織的な学校運営を推進し、生徒や保護者・地域から満足のいく学校をつくる。

- ・ 生徒学校満足度 80 % 以上 88.4 %
- ・ 保護者の学校満足度 80 % 以上 89.1 %